



50年を振り返る

島根県出雲保健所 中 本 稔

「けんこう」50号、おめでとうございます。諸先輩たちが残してきた健康への取り組みが、今の出雲の学校保健や、島根県、日本の社会を築いたことに、感謝申し上げます。

手元にある資料や厚労省のデータから、50年前の主な保健統計（全国）をまとめて、50年を振り返ってみました。

1975年、島根医科大学が設置されました。その後、卒業生が医師となり、島根や日本の医療を支える人材を輩出していることはご承知のとおりです。私も一県一医大構想で設置された新設医学部の出身で、大学病院は田圃の中にありました。この50年で日本の医師は3倍に増えました。

1977年、市町村に1歳6か月児健康診査が導入されました。発達の節目にあたる1歳6月でチェックして早期療育につなぐ大津方式が手本でした。1994年、保健所法が地域保健法に改正され、市町村保健センターが地域保健の第一線機関と定義され、保健所実施の3歳児健診など母子保健事業の多くが市町村に移管されました。

1973年から82年、老人福祉法により老人医療費が無料でした。1985年、医療法改正により都道府県が地域医療計画を策定し「基準病床」を指標に医療提供をめざすこと＝病床規制の導入です。周産期医療施設や老人保健施設、訪問看護ステーションができたのもこの頃です。2000年介護保険が始まり医療と介護が分かれました。医療保険では、2008年後期高齢者医療が導入されました。

児童の権利に関する条約は、1989年、国連総会で採択、1990年発効、日本は1994年に批准しました。UNICEFは、生きる、育つ、守られる、参加するという4つの権利を分類しています。

1981年に始まった感染症発生動向調査事業は、1987年にPCオンライン化されました。学校等欠席者・感染情報システムは2007年に出雲医師会と学校医部会、国立感染症研究所により開発され、今では全国で利用されています。感染症の患者発生や拡がりを早期に探知する画期的なシステムで、たとえば「麻疹」と入力した瞬間に全国にアラートを発信します。

予防接種は、義務から勧奨、集団接種から個別接種に変化しました。2013年、予防接種法の改正により、乳幼児期のHib、肺炎球菌ワクチン、思春期女子のHPVワクチンが導入されました。その後、HPVワクチン健康被害の議論がおり、勧奨接種が中止となりました。2022年から勧奨接種が再開され、本来の対象年齢に加え接種機会を逃した25歳までキャッチアップ接種が進められています。2015年に国連総会で決議されたSDGsに関連して、2019年WHO理事会では子宮頸がん排除の世界戦略が策定され、2030年目標は接種率90%です。

新たな50年をめざし、子どもたちの健康を高める環境づくりに関わっていきたくと考えています。

	1970年	2020年
総人口（千人）	103,720	126,146
年少人口（千人）	24,823	15,032
年少人口割合（%）	23.9	11.9
老年人口割合（%）	7.1	28.6
出生数	1,934,239	840,835
合計特殊出生率	2.13	1.33
死亡数	712,962	1,372,755
平均寿命 男（年）	69.31	81.56
平均寿命 女（年）	74.66	87.71
妊産婦死亡率（出産10万対）	48.7	2.7
周産期死亡（出生千対）	21.7	2.1
乳児死亡数	25,412	1,512
乳児死亡（出生千対）	13.1	1.8
医師数	118,990	339,623
歯科医師数	37,859	107,443
薬剤師数	79,393	321,982
医療費（億円）	24,962	※407226
		※ 2019年データ